

教 育 長 様

代表者 校 園 名： 大阪市立本田小学校

公印

校 園 長 名： 銭本 三千宏

電話： 6581-1531 F A X： 6581-3194

申請者 校 園 名： 大阪市立本田小学校

職 名・名 前： 首席教諭 流田 賢一

電話： 6581-1531 F A X： 6581-3194

代表者校 園 事務職員名： 大谷 由香

## 平成 29 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1 研究コース：	グループ研究 A コース	・	グループ研究 B コース
新規研究 (1 年目) 継続研究 : ( 2 年目 3 年目 )			
2 研究テーマ			
資質・能力を育成する国語科授業のあり方 ー パフォーマンス評価を活用して ー			
◆ 研究内容のキーワード： 国語科，資質・能力，指導力向上，パフォーマンス評価，学力向上，カリキュラム・マネジメント，			
3 研究目的：			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次期学習指導要領でめざす児童の育成</li> <li>○ カリキュラム・マネジメントと学習評価の充実</li> <li>○ 資質・能力を育成し，汎用的能力が身についた児童の育成</li> <li>○ 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催</li> <li>○ 先進的研究校から講師を招聘し，公開授業・講演会を企画・運営し，大阪市全体へ拡大</li> </ul>			
4 研究内容：			
<p>社会の急激な変化のため，教育改革の流れが世界的に起こっている。日本では，10 年後に必要となる力の育成をめざした次期学習指導要領が告示された。情報化社会・グローバル化社会の中で生き抜く力をつけるために必要となる力は①何を知っているか，②知っていること・できることをどう使うか，③どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか。である。①②③が有機的，総合的に向上することをめざした研究となるために，本研究では次の 2 点について重点的に行う。</p> <p>①国語科においてどのように学ぶかという「本質的な問い」（国語科授業づくり研修会）</p> <p>②カリキュラム・マネジメント（複数教材で学力をつける）・学習評価（パフォーマンス評価の研究）の充実</p> <p>知識・技能を向上させるためだけの授業と合わせて，資質・能力を育てることを目標としながら，次期学習指導要領のめざす授業を研究していきたい。そのため，単なる名人芸的な授業力向上をめざだけではなく，カリキュラム・マネジメントとパフォーマンス評価の視点をいかした授業改善を研究し，教師の指導力向上を図りたい。言語活動を重視しコミュニケーションの欲求が高まる場面を位置づけ主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行いたい。児童には，粘り強く学ぶ力，自ら課題を発見する力，試行錯誤する力，コミュニケーション能力という汎用的能力を育み，児童の学力向上をめざす。</p> <p>研究教科を国語科にした理由の 1 つは，「言語能力の育成を図るため，国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて，児童の言語活動を充実すること」。もう 1 つは，国語科は「教えるのが難しい」「何を教えたらいいいのか分からない」と教師が感じる教科，であるからである。そのため，先進的研究校である筑波大学附属小学校等に視察に行き，大学教員とも連携した研究を行い，その成果を公開していきたい。月に一回，国語授業づくり研修会を実施し，本研究メンバー以外の参加を呼びかけていきたい。また，学期に一回，先進的研究校から講師を招聘し，公開授業研究会を実施し，多くの先生方を対象に国語授業づくり改善につながるための学習の場としたい。</p> <p>本研究の評価として，児童・保護者にアンケート調査し，インタビューによる検証を加える。本校の協働研究者や，研究会に参加した教員にもアンケート調査し，児童・保護者・協働研究者からの三角測定（トライアングレーション）による検証を実施する。</p> <p>本研究は次期学習指導要領実施に向けて大阪市のスタンダードモデルとして広げていきたい。</p>			

5 活動計画：		
◇	4月	年間計画作成、講師と事前打ち合わせ
☆	5月	児童アンケート、インタビュー調査（研究前の実態把握）
☆◇	6月 2日	国語授業づくり研修会（授業づくり、パフォーマンス課題研修）今後月一回実施
☆	7月 3日	公開研究授業・明星大学教授白石範孝先生招聘（研究の提案）、参観者アンケート実施
☆	7月 21日	1学期の取り組み報告・国語授業づくり研修会
★	8月	協働研究者と国語研修合宿（1学期の取り組み報告・2学期以降の研究を整理）
★	8月 4日 5日	京都大学准教授 西岡加名恵先生の研究会参加
☆	8月 26日	全国国語授業研究大会（先進的研究校視察）
★	9月	2学期の教材研修会（協働研究者と授業の視点を確認し、教材研究）
☆◇	10月 16日	先進的研究校視察
◇	10月 17日	公開研究授業・筑波大学附属小学校青木伸生先生招聘、参観者アンケート実施
☆	12月 19日	児童・保護者に中間アンケート実施、インタビュー調査
☆	1月 16日	2学期の取り組み報告・国語授業づくり研究会
☆◇	1月 22日	3学期の教材研究会
◇	2月 6日	公開研究授業・明星大学教授白石範孝先生招聘、参観者アンケート実施
		児童・保護者にアンケート実施、インタビュー調査
		協働研究者（本校・他校）にアンケート調査
☆公開授業・研究会実施      ★先進的研究校視察      ◇アンケート・インタビュー、学力調査		
6 見込まれる成果：		
○ 次期学習指導要領教を見据えた教師の指導力向上		
国語の授業改善、次期学習指導要領がめざす授業像に向けて、教科の本質に立ち返り、「なぜ学ぶのか」「どういった力が身につくのか」を研究する。また、教科書では物語文章や説明的文章等は学期に一回指導することになっている。カリキュラム・マネジメントによりそれぞれの領域の文章を学期に複数教材を扱うことにより、児童に学力をつけたり、国語科の面白さを実感させたりすることができる。パフォーマンス評価を取り入れることにより教員の授業改善につながる。		
大阪市や全国の仲間と協働した研究により <b>研究の輪</b> を広げる。		
○ 汎用的能力の育成		
汎用的能力を獲得し、社会で必要となるスキルを身につけた児童は、問題を発見し、粘り強く取り組み解決しようと協働的に学ぶ。国語科の学習でパフォーマンス評価をすることにより、これからの児童に必要な汎用的能力の育成を確認することができる。		
7 成果の検証方法：		
○ 児童の学力向上・人間性の育成		
1学期と3学期に知識・技能テストを実施し、平均点を5ポイントあげ、基礎学力を向上させる。児童の人間性については、学校アンケートを活用し「国語の授業が楽しい」という項目の肯定的回答の割合を8割以上にする。また、抽出による半構造化インタビューにより児童・保護者・教職員からの調査結果を三点測定（トライアングレーション）する。		
○ 研修会・研究会の開催により、合計200名の参加をめざす		
国語科の本質をとらえた授業づくりは、学力向上に不可欠である。月一回の研修会と学期一回の公開授業研究会を実施し、多くの先生に学びの場を提供する。本研究メンバー以外の教員とも研究を進め、研究の輪を広げる。協働研究者が増えることにより、教科の本質が深まる話し合いになる。そして、参観した教員へアンケート調査をすることにより、客観性を保った研究となる。		
○ 研究内容を広める		
複数教材の指導におけるカリキュラム・マネジメントやパフォーマンス評価について研究したことを文章、ホームページで公表する。		
8 研究発表の日程・場所（予定）		
日程： 平成29年7月3日、平成29年10月16日		場所：大阪市立本田小学校
平成30年1月22日		場所：大阪市立南百済小学校
9 代表校園長のコメント		
若い教員が大量採用され、本校でも経験年数が10年未満の教員が半数以上を占めるようになった。これは大阪市の全体的傾向であり、それゆえに若い教員の授業力の向上が求められている。様々な教科の中でも国語科は各教科の学習の基盤をなす教科であるにも関わらず、国語科の授業設計に不安を感じている教員は少なくない。		
一方次期学習指導要領では教科指導においても「育成すべき資質・能力」がカリキュラム・デザインの中に組み込むことが求められ、そのために「どのように学ぶか（アクティブ・ラーニング等）」が注目されている。		
本研究は、若い教員も身につけなければならない「国語科の授業の本質」と今日的課題である「国語科におけるカリキュラム・マネジメント」「国語科におけるパフォーマンス評価」を視野に入れた研究である。高い志を持った若手の研究メンバーは大阪市の教育にとって有益な研究成果を提供すると考える。		

